

**令和7年度 尼崎市総合交通計画 評価・管理シート
【令和6年度の取組状況】**

施策	事業
1 鉄道駅周辺の特色を活かしたまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> a) 居心地良く歩きたくなる駅前空間の創出 b) 駅前空間の利活用促進 c) 鉄道駅の利便性向上 d) 良好な住環境と利便性を両立したまちづくり
2 交通によるおでかけの促進	<ul style="list-style-type: none"> a) 公共交通・シェアサイクルの活用促進 b) 超小型モビリティの活用検討 c) おでかけの促進に向けた情報発信
3 臨海部での交通と観光の連携	<ul style="list-style-type: none"> a) 自転車による臨海部の周遊促進 b) 大阪・関西万博との連携 c) 臨海部の新たな観光施策の検討
1 安全・安心・快適に移動できる交通インフラの整備	<ul style="list-style-type: none"> a) 道路の安全対策 b) 駅・踏切の安全対策 c) 駅周辺のバリアフリー化
2 すべての人にやさしい公共交通の構築	<ul style="list-style-type: none"> a) 移動支援の推進 b) 安全・快適なバス待ち環境の改善 c) わかりやすい交通情報の案内 d) 交通従事者の意識啓発
3 環境に配慮した交通への転換	<ul style="list-style-type: none"> a) モビリティ・マネジメントの推進 b) シェアリングの普及 c) エコカー普及促進 d) 駅舎等の環境負荷低減(脱炭素化)
4 交通ルールを守り、安全・安心に移動できる社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> a) 交通指導・取り締まり b) 道路の安全対策(再掲) c) 交通安全の啓発
1 持続可能な公共交通の構築	<ul style="list-style-type: none"> a) バス路線の維持・見直し・再編 b) 新たな交通サービスの検討 c) 公共交通維持のための体制づくり d) わかりやすい交通情報の案内(再掲) e) 公共交通を利用するきっかけづくり
2 自転車のまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> a) 自転車の共有を促す仕組みづくり b) 放置自転車対策 c) 駐輪場の維持・更新 d) 道路の安全対策(再掲) e) 交通安全の啓発(再掲)
3 災害に強い都市活動を支える交通基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> a) 道路インフラ等の維持管理・更新・耐震化 b) 交通施設の維持管理・安全対策 c) 交通結節点の再構築
4 市域の交通円滑化・環境改善	<ul style="list-style-type: none"> a) モビリティ・マネジメントの推進(再掲) b) シェアリングの普及(再掲) c) 主要渋滞箇所への対応

令和7年度 尼崎市総合交通計画 進捗管理シート(令和6年度の取組状況)

総合交通計画
の目指す姿

暮らしやすさと働きやすさが調和し、
人が“つどう”まち

基本
目標
1

交通と連携した魅力を伸ばすまちづくりの推進

生活や仕事などの拠点となる鉄道駅周辺の特色あるまちづくりや、おでかけの促進等に取り組むことで、賑わい・魅力あるまちづくりを目指します。

評価指標

評価指標	方向	基準値			目標	実績値					
						(R5)	R6	R7	R8	R9	R10
鉄道駅周辺の滞在人口	↗	R4	2.1	万人	2.5	2.3	2.6				
地域ならではの特色やにぎわいがあると感じている市民の割合 ※	↗	R4	53.4	※ %	62	※ 52.6	50.3				
居住誘導区域内における人口密度	↗	R2	125.1	人/ha	119.5	—	—		—	—	—
市内の観光入込客数	↗	R4	241.6	万人	300	272.6	289.0				

※R4、R5は「居住する地域には自慢できる特長がある」と感じている市民の割合

令和6年度
の取組
(抜粋)

- ・阪神尼崎駅前の中央公園のリニューアルが完了し、阪神大物駅前の小田南公園の再整備が完成しており、賑わいが生まれているなど、指標にも表れている。
- ・(仮称)武庫川周辺阪急新駅については、周辺住民への説明会により意見交換を実施し、今後は駅舎や自転車駐車場の設計に取り組む
- ・電動モビリティの活用検討について取組実現には至らなかった

分科会
意見

- ・阪神大物駅前について、完成後の周遊や賑わい向上のため、交通の観点を取入れた検討を進めてはどうか
- ・(仮称)武庫川周辺阪急新駅の設置とまちづくりの推進については、周辺住民の意見を考慮しつつ、周辺整備や駐輪場整備に向けて検討を進めていただきたい
- ・電動モビリティの活用検討について、引き続き検討を進めていただきたい



令和7年度 尼崎市総合交通計画 進捗管理シート(令和6年度の取組状況)

総合交通計画
の目指す姿

暮らしやすさと働きやすさが調和し、
人が“つどう”まち

基本
目標
2

誰もが安全・安心・快適に移動できる環境の創出

環境に配慮した交通への転換や少子高齢化社会への対応等を進め、すべての人が安全・安心・快適に移動できる交通環境の実現を目指します。

評価指標

評価指標	方向	基準値		目標	実績値						
					(R5)	R6	R7	R8	R9	R10	
「ルール、マナーの面で以前よりも住みやすいまちになった」と感じている市民の割合	↗	R4	62.2 %	76	65.6	65.7					
運輸部門の二酸化炭素排出量	↘	H25	408 kt-CO2	250	(R4実績) 375	(R5速報値) 373					
自転車関連事故認知件数	↘	R4	485 件	404	494	461					
公共交通及び移動支援サービスへの公的資金投入額	—	R4	8.1 億円	9	8.5	8.6					

令和6年度の取組(抜粋)

- ・シェアサイクルについては、サイクルポートを新たに43箇所追加し、計156箇所となったほか、令和6年度の利用回数は202,906回であり、前年度の概ね2倍のペースで推移している
- ・公共交通利用環境向上支援補助金を活用し、バス停において新たにベンチの設置を1箇所行った
- ・毎月第4金曜日をエコ通勤の日として設定し、日ごろから自動車やバイクで通勤している職員を対象に、電車やバスなどの公共交通、自転車や徒歩による通勤に取り組むような啓発を行ったが、成果が測れていないなどの課題がある

分科会意見

- ・シェアサイクルの普及促進について、交通手段としての役割も含めた検討を行い、引き続き市内で利活用されるように取組を進めていただきたい
- ・バス停上屋、ベンチ等の設置については、各事業者においても費用面や維持管理面などで課題が多いが、さらなる利用環境向上のため、関係機関と協議し設置に向けて進めていただきたい
- ・公共交通利用意識の啓発について、市への転入者向けの施策について検討を進めてはどうか



令和7年度 尼崎市総合交通計画 進捗管理シート(令和6年度の取組状況)

総合交通計画
の目指す姿

暮らしやすさと働きやすさが調和し、
人が“つどう”まち

基本
目標
3

利便性が高い交通環境の構築

快適な暮らしや活発な経済活動を支えるために、持続可能かつ利便性の高い交通ネットワーク及び交通基盤の構築を目指します。

評価指標

評価指標	方向	基準値		目標	実績値						
					(R5)	R6	R7	R8	R9	R10	
一人一日あたりの公共交通の利用回数	↗	R4	0.60	回/人	0.70	0.63	0.64				
駅前にシェアサイクルポートが設置されている駅数	↗	R4	4	駅	13	4	4				
「都市基盤が整い利便性と安全性が確保されている」と感じている市民の割合	↗	R4	84.0	%	90.0	86.2	85.7				

令和6年度の取組
(抜粋)

- ・コロナ禍以降、新たな生活様式の定着等によりバス利用がコロナ禍前のおよそ9割に留まる中、引き続き、対象となる路線への補助を行うことで、市民活動を支える持続可能なバスネットワークの維持に取り組んだ
- ・AIオンデマンド型交通の実証運行について事業者を募集し、選定を行った

分科会意見

- ・持続可能なバス路線の構築について、運転士不足や2024年問題の労働力が不足している中で、継続した運行のため、バス路線の維持・見直し・再編について早期に取組む必要がある
- ・今年度にAIオンデマンド交通の実証運行を行うこととしているが、実証運行の検証分析を着実にを行い、新たな交通サービスとしての可能性について検討を進めていただきたい

